

5 産業・交流

基本施策21 シティプロモーション

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



◆現況と課題

- 日本全体の人口減少が本格化し加速する中、地域の活力を維持・増進させるためには、定住人口の維持・増加と交流人口^{*}の増加が重要です。多くの自治体は、定住人口及び交流人口の確保・増加のため、地域の魅力やイメージを高め情報発信を通じて知名度の向上に積極的に取り組んでいます。
- 小牧市も、「訪れたいまち」「住みたいまち」「住み続けたいまち」として選ばれる魅力あるまちづくりとして、地域ブランド基本戦略^{*}による都市ブランディングを進めています。
- 市内の主要な観光施設の入込客数は横ばい、または減少傾向にあり、市全体の観光入込客数は減少傾向です。また、主要なイベントの参加者数ではさくらまつり以外は、横ばい、または減少傾向です。不足している地域資源要素として「小牧ならではの食事」、「小牧ならではの名物・特産品」の充実が求められています。
- 一方、新たな観光地点として「れきしるこまき(小牧山城史跡情報館)」がオープンし、小牧山を核とした地域資源の強化に取り組んでいます。今後、地域資源の魅力向上や小牧市ならではの食事・名物・特産品を掘り起こし、磨き上げることで、ブランド力の向上を図る必要があります。
- 小牧市が主催するイベントやまつりに対する市民の満足度は横ばい傾向です。今後は、参加型や若年世代を取り込むための新たな企画を加えることでマンネリ化を防止し、魅力あるイベントやまつりに変革していく必要があります。
- 市民を主体とした都市間交流の推進が、小牧市の魅力の発信や市民の愛着と誇りの醸成につながるよう取り組む必要があります。
- これらの取組みを総合し相乗効果を発揮させながら、「訪れたい人」「住みたい人」「住み続けたい人」を増加させる必要があります。その際、外国人観光客の増加に対応したインバウンド^{*}対策も重要な課題です。

【関連条例・関連計画】

・観光振興基本計画

◆基本施策の目的及び状態指標

【基本施策の目的:目指すまちの姿】

さまざまな地域資源の魅力向上とその活用によりブランド力を高めるとともに、魅力を市内外に発信することにより、「訪れたいまち」「住みたいまち」「住み続けたいまち」の形成を目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
交流人口	1,944,102人	↗
定住人口	152,816人	↗
主要な観光施策・資源の利用者数(イベント)	444,784人	↗
主要な観光施策・資源の利用者数(イベント以外)	1,499,318人	↗

◆基本施策の体系

基本施策	シティプロモーション	展開方向1	都市ブランディングを積極的に進めます
		展開方向2	地域資源の魅力を高めます
		展開方向3	まちのにぎわいを創出します
		展開方向4	地域資源を総合的に情報発信します

◆展開方向1：都市ブランディングを積極的に進めます

【目標】

- 市民に対し地域ブランド戦略の取組みについて発信し、さらなる愛着醸成につなげます。
- 市外への魅力発信により小牧市の話題作りを進め、外からの評価を高めることで小牧市民の愛着や誇りの醸成を図ります。

【手段】

- ブランドムービーやブランドブックを活用し、地域ブランド戦略について分かりやすく情報発信します。
- インターネットやデジタルサイネージ*などさまざまな広告媒体を用いて、地域ブランド戦略の取組みを市内外に広く発信します。
- 市民を主体とした都市間交流を推進します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
ブランドロゴマーク・キャッチフレーズを知っている市民の割合	72.9%	↗

◆展開方向2：地域資源の魅力を高めます

【目標】

- 小牧山を核とした地域資源の魅力を総合的に強化します。

【手段】

- 自然、歴史、文化、特産品などの多彩な地域資源の魅力を向上させます。
- 小牧山を核に市内の多様な地域資源を連携させた、特色ある観光事業を展開します。
- 近隣市町及び観光協会との交流・連携を推進し、広域的な魅力ある観光地域づくりに取り組みます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
市が管理運営する観光関連施設の来場者数	911,447人	↗

◆展開方向3：まちのにぎわいを創出します

【目標】

○魅力あるイベントやまつりなどを開催することで、にぎわいの創出や中心市街地の活性化につなげます。

【手段】

○参加者だけでなく来場者もまつりの一員として一体感を感じる魅力あるイベントやまつりを開催します。

○市民やまつりの参加団体などからアイデア、改善案を募集し、まつりに反映します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
市の主なイベントやまつりに来場または参加した市民の割合	33.9%	↗

◆展開方向4：地域資源を総合的に情報発信します

【目標】

○多彩な地域資源の魅力を市内外に発信することで、小牧市の認知度を高めます。

【手段】

○ホームページやSNSなどのさまざまな媒体を活用し、観光協会を含む各主体による情報発信力を強化します。

○地域資源やイベントに関する情報を多様なメディアに取り上げられるように発信します。

○訪日外国人旅行者の受入環境の整備として、案内看板・観光施設の多言語対応の取組みを促進します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
地域資源に関する情報発信・提供に対するアクセス数	181,771件	↗
市の地域資源がメディアに取り上げられた件数	112件	↗

基本施策22

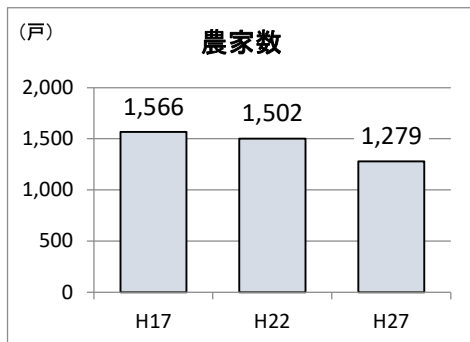
農業



◆現況と課題

- 小牧市の農業は市街地及びその周辺の地域で行われている都市農業に位置づけられ、新鮮な農産物の供給、防災空間の確保、良好な景観の形成など多様な機能を発揮しています。また、人口減少や高齢化の進展、市街地整備における「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考えなどから、都市農地に対する開発圧力は今後徐々に低下することが見込まれます。
- 小牧市の農業就業人口は、平成28(2016)年までの5年間で17%減少し、耕地面積は平成28(2016)年までの5年間で6%減少するなど、将来を担う農業者が減少し、農業生産額の減少や耕作放棄地*が増加しています。そのため、産業としての農業の振興と多様な公益的機能を有する農地の維持の両面から、新たな担い手の確保を進めるとともに担い手に農地を集積・集約し、その担い手の技術力を高め安定した農業経営を実現する必要があります。
- このような状況のもと、農業委員会制度が大幅に改正され、新たに農地利用最適化推進委員が加わった新体制の農業委員会では、農地法に基づく事務に加え農地利用の最適化に係る活動を推進しています。
- 地域ぐるみで農業を支えるためには、市民の農業への理解が重要であることから、安全・安心な農産物の提供、魅力ある地元農産物の普及啓発を図る必要があります。
- 老朽化などにより農業用排水施設の機能が低下していることに加え、雨水流出量の増大、局地的な豪雨など近年の異常気象の頻発に伴い、水路があふれたり農地に水がたまることによる農作物への被害が顕著となっています。このため、水路を改修し排水機場を改築することで、農作物への被害の軽減を図る必要があります。

【参考データ】



【関連条例・関連計画】

- ・小牧農業振興地域整備計画
- ・小牧市 人・農地プラン
- ・第3次小牧市食育推進計画

◆基本施策の目的及び状態指標

【基本施策の目的:目指すまちの姿】

市民の農業に対する理解を深めるとともに、安定した農業経営と農業生産基盤が維持され、優良な農地が保全されたまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
耕作放棄地の面積	62ha	↘
鳥獣による農作物被害額	2,647千円	↘
農家1戸あたりの生産農業販売実績額	181千円	↗

◆基本施策の体系

基本施策 農業	展開方向1	農業の担い手を育成・確保します
	展開方向2	優良な農地を維持・保全します
	展開方向3	農業にふれあえる機会を充実します
	展開方向4	農業生産基盤の整備を推進します

◆展開方向1：農業の担い手を育成・確保します

【目標】

○農業経営の安定化のため、地域農業の担い手の新規開拓・育成・確保を図ります。

【手段】

○認定新規就農者^{*}、認定農業者^{*}に対し補助及び融資制度について情報提供します。

○栽培技術を学ぶ農業体験を通じて新規農業就業者を確保します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
認定新規就農者数	2人	↗
認定農業者数	25人	↗
農業体験事業への参加者数	17人	↗

◆展開方向2：優良な農地を維持・保全します

【目標】

○農地の多様な公益的機能を維持するため、耕作放棄地の発生防止・減少と農地の利活用を図ります。

【手段】

○農業委員、農地利用最適化推進委員及び農協と連携しながら、農地の貸出希望者の発掘を行います。

○農地の貸出希望者に対して、農地中間管理機構^{*}を介した貸出を支援します。

○耕作放棄地を解消し、農地の保全を図ります。

○鳥獣被害対策について、関係機関と連携して取り組みます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
農業の担い手へ集積した農地面積	61.3ha	↗
農地中間管理機構を活用した貸付面積	0.3ha	↗
耕作放棄地の解消面積	0.8ha	↗

◆展開方向3：農業にふれあえる機会を充実します

【目標】

○身近な農産物の栽培に親しみを感じ、さらに地元農産物にふれあえる場の充実に図ります。

【手段】

○いきいきこまき、市民まつりなどのイベントで地元農産物の魅力を発信します。

○市民菜園や農地活用により、身近な農産物を楽しみながら栽培できる機会を提供します。

○「食育と環境」をテーマとする農業公園の整備を進めます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
市民菜園の利用者数	153人	↗

◆展開方向4：農業生産基盤の整備を推進します

【目標】

○新木津用水路の改修工事を促進するとともに、小木排水機場改築事業を促進します。

【手段】

○国営総合農地防災事業新濃尾二期地区^{*}の計画に基づき、事業主体である国と連携しながら、工事を実施する地元区の理解を得るため工事説明会などの調整を行います。

○県営土地改良事業たん水防除事業小牧小木二期地区^{*}の計画に基づき、事業主体である県と連携しながら、事業を実施する地元区及び関係機関との調整を行います。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
新木津用水路改修工事の進捗率	23.3%	↗
小木排水機場改築事業の進捗率	0%	↗

基本施策23 商工業

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



◆現況と課題

- 小牧市の産業は、製造業の単位人口あたりの事業所数、従業者数及び製造品出荷額などが、愛知県平均及び近隣市と比較して高く、工業都市としての性格が極めて強くなっています。
- 小牧市の強みや特性を活かした強固な産業基盤を構築するには、バランスの良い産業集積を目指す必要があります。
- 市内総生産額を高めるためには、航空産業をはじめとする次世代成長産業への参入や新事業展開による製造業を中心とした付加価値額を高めていく必要があります。
- 経済センサスによると平成26(2014)年から平成28(2017)年までの全産業の事業所の開業率が3.9%に対して廃業率が9.5%で、近隣市と同様に廃業が開業を上回っています。事業所は、市内の経済活動を活性化させる重要な役割を担うことから、起業・創業を支援する必要があります。
- 平成31(2019)年4月に「こまき新産業振興センター」を開設し、小牧市の特徴である製造業を中心に、成長産業への参入促進、新事業展開の促進、デジタル技術を活用した生産性革命の推進などの支援を強化します。
- 小牧市は陸空の要衝として機能しており、名古屋を拠点とする関連企業に近い立地条件を備えていることから、新規立地に高い優位性を備えています。引き続き、市内企業の事業規模拡大や市外から新たに企業を呼び込むための取組みを進める必要があります。
- 少子高齢化が進む中、新卒者などの人材確保が困難なことから、事業所の採用活動と市民の求職活動双方への支援など、従来の支援に加え、雇用の確保につながる支援策の充実が課題となっています。

【関連条例・関連計画】

- ・小牧市中小企業振興基本条例
- ・小牧市企業新展開支援プログラム

◆基本施策の目的及び状態指標

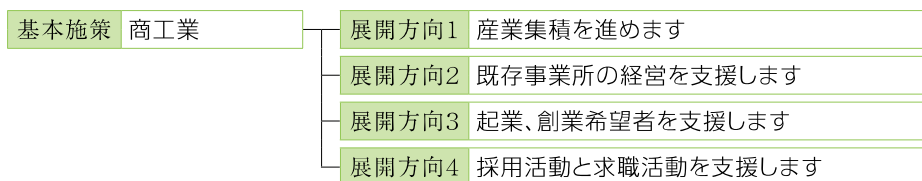
【基本施策の目的:目指すまちの姿】

小牧市の強みや特性を活かしながら産業力を高め、市内企業の流出防止とともに市外から多くの企業を呼び込み、将来にわたり持続可能なバランスのとれた足腰の強い産業構造のまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
市内総生産額	970,200百万円 (平成27年)	↗
製造品出荷額	1,362,734百万円 (平成29年)	↗
年間商品販売額	712,371百万円 (平成27年)	↗
従業者数(製造業、卸売・小売業)	51,353人 (平成28年)	↗

◆基本施策の体系



◆展開方向1：産業集積を進めます

【目標】

○新規進出企業を増やすとともに、市内企業の流出防止に取り組みます。

【手段】

○ニーズに対応した補助制度への改善を図りながら、補助制度の活用を促進します。

○民有地の活用などにより、工業用地を創出します。

○企業訪問により、今後の設備投資計画などの情報収集を図ります。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
市の補助制度を活用して進出した企業数(累計)	15件	↗
新たな立地許可基準(12号条例)を活用した立地件数(累計)	2件	↗

◆展開方向2：既存事業所の経営を支援します

【目標】

○中小企業への支援を充実します。

【手段】

○「こまき新産業振興センター」を中心に、成長産業への参入や新事業展開を促進します。

○商工会議所、事業者、中小企業団体、大学などと連携し、既存の中小企業に対して経営基盤の安定化に関する補助制度の構築と活用の推進を図ります。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
「こまき新産業振興センター」における支援企業数	—	↗
既存企業に対する各種補助件数(累計)	687件	↗

◆展開方向3：起業、創業希望者を支援します

【目標】

○市内で新たに起業、創業する人を増やします。

【手段】

○起業、創業希望者のニーズに対応したセミナーを開催します。

○起業、創業に関する補助制度の活用を促します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
セミナー参加者の起業(創業)者数(累計)	24人	↗
起業・創業者に対する各種補助件数	57件	↗

◆展開方向4：採用活動と求職活動を支援します

【目標】

○採用活動と求職活動をマッチングして、就職者数を増やします。

【手段】

○採用活動に対する補助制度を創設します。

○商工会議所と連携して就職フェアなどのマッチングの機会を創出します。

○愛知県が実施する移住支援事業と協働し、東京圏からの移住・就職者への支援を行います。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
市の施策を通じて就職した人数	7人	↗